

第8学年



学びの 카테고리 「働く」

第7学年では、人々のそれぞれの立場を尊重し、多様な見方や考え方があることを理解しながら探究してきた。第8学年では、自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、徐々に自分の将来のことも考える時期である。様々な職業で働く方々と関わったり実際に働いたりすることを通して、働くことの意義ややりがいなどに触れ、何のために働くか、どのように働きたいかということを探究していく。

岡本 恭子
三輪 佳祐
丹下 侑輝

第8学年1組 年間指導計画 「学びのカテゴリー」： 働く (全105時間)

第8学年の目標	(1) 問題解決力に関わって 様々な立場から考え、最後まで粘り強く活動を工夫できるようにする。 (2) 関係構築力に関わって 仲間の意見を受容し、仲間と共によりよい活動にしていけるための手立てを考えることができるようにする。 (3) 貢献する人間性に関わって 勤労を通して社会に貢献することの喜びを実感し、将来に向けて充実した生き方を追求し実現しようとする態度を養う。												
カテゴリー設定の理由	第7学年では、身近にはあるが、意識しないと認識することが難しい文化について探究してきた。文化に携わる方たちと関わり、その人たちの思いや守り続けられてきた文化の大切さを実感することができた。第8学年では、自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、徐々に自分の将来のことも考える時期である。だから、いずれ誰もが自分で行うことになる「働くこと」について探究する。様々な職業で働く方々と関わることで、多くの働くことの意義ややりがいなどに触れながら、働くことについて探究していく。この学びの過程の中で、何のために働くのかや働き方などの、自分なりの職業観を身に付けながら、第9学年の自分の生き方について考えていくことにつなげていく。												
学びの基盤となる道徳的諸価値	○勤労 ○よりよく生きる喜び ・家族愛、家庭生活の充実 ・社会参画、公共の精神 ・公德心 ・向上心、個性の伸長 ・礼儀 ・相互理解、寛容 ・よりよい学校生活、集団生活の充実 ・希望と勇気、克己と強い意志 ・思いやり、感謝												
学びを構成する要素	お金 やりがい 夢 将来設計 進路計画 楽しい 幸せ 辛い 自由 大人 家族 生活 養う 個性 貢献 共生 労働環境 労働状況 社会参画 福祉 ボランティア												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
単元名(時数)	「働くとは」(27時間)				プ主 ロ体 ジ的 ェに ク情 ト報 をを 立取 ち集 上す げる 、 実行 する	「理想の働き方を実現しよう」(58時間)				「自己実現に向けて」(20時間)			
主な学習活動	○「働く」と聞いて思い浮かぶこと、考えたいことを出し合い、問いをつくる。 ○身近な人へのインタビュー活動を通して、人それぞれの職業観に触れる。 ○自己分析や自身の職業適性について調べ、将来なりたい自分や理想の働き方についての願いをもつ。 ○職業観についての考えを深めるために、どのような働き方をしている人の話を聞きたいのかを意見を出し合い決定する。 ○職業講話を通して実際に働いている人に話を聞くことで、「働くこと」への興味・関心を高めたり、探究の動機をもったりする。					○前単元を通して触れた様々な職業観を基に、理想の働き方についての考えをまとめる。 ○自分の才能や個性、願う生き方について考え、理想の働き方を実現することができそうな職業について考え、交流する。 ○職業分野ごとにグループを構成し、理想の働き方を今の学校生活の中で模擬体験するプロジェクト活動を計画する。 ○グループごとに、自分たちの願う職種で理想の働き方を実現している人について調べ、インタビューする。 ○企業訪問、工場見学、職業体験を通して、プロジェクト活動をより充実させるためのヒントを収集したり、アドバイザーを依頼したりする。 ○理想の働き方を実現するためのプロジェクト活動を行う。				○これまでの学びから築き上げた職業観についてまとめ、発表する。 ○確立した職業観を基に、自身の生き方を見つめ、将来に向けて、今の自分に必要なことや今後の目標について明らかにする。 ○自己実現に向かうために、来年度、探究したいことを考える。 ○職業観を生かして、日常生活の中で、今、自分が実践できる活動を考える。			
想定されるエラー(■) ジレンマ(●) 【道徳的諸価値】	■働くこと一番の目的はお金を稼ぐことではないのか。 ●自分のために働くことは間違っているのか。 【・家族愛、家庭生活の充実・社会参画、公共の精神・公德心 など】					■たくさんのお客様に満足してもらう活動にすることも大切だが、一人のお客様の満足度を高めることも必要なのではないか。 ●楽しそうな活動にしていきたいが、自分にできることから充実感を得ようと考えたと、自分の興味や楽しさだけを優先してプロジェクトを選択してはいけないように思う。 ●自分の個性や才能を存分に生かしたいが、仲間の前でそれを発揮することが本当にできるだろうか。 【・向上心、個性の伸長・礼儀・相互理解、寛容・よりよい学校生活、集団生活の充実 など】				■プロジェクト活動を通して実現することはできたが、これを実際の職業にと考えると難しい。 ●本当に自分にできるのだろうか。 【・希望と勇気、克己と強い意志・思いやり、感謝・よりよく生きる喜び など】			
人材活用施設	・自分の家族 ・地域の店、地元の企業、医療機関 ・教員、事務員、警備員 ・ハローワーク					・海遊館 ・吉本興業 ・合同会社USJ ・地域密着型企業(東大阪ものづくり工場) ・市役所 ・大学 ・福祉施設				・保護者 ・9年生や後輩(かぞく含む) ・ここまでに会った方々			
教科等との関連	・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・社会：日本の地域的特徴と地域区分(人口、産業、交通、通信) ・国語：聞き上手になろう～質問で思いや考えを引き出す～				・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・社会：日本の諸地域 ・国語：立場を尊重して話し合おう～討論で多角的に検討する～ ・音楽：日本の伝統芸能				・社会：開国と近代日本の歩み(産業革命と資本主義) ・国語：国語の学びを振り返ろう ～テーマを決めて話し合い、壁新聞をつくる～				

単元名 理想の働き方を実現しよう (58)	本単元の目標		
	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
	サービスを提供する側とされる側の互いの立場から考え、アドバイザーなどの客観的な意見も生かして最後まで粘り強く活動を工夫できるようにする。	より満足度の高い活動にしていくための手立てについて、積極的に意見を出し合い、仲間と共に議論しながら活動を構築できるようにする。	「人に喜んでもらうこと」「人を幸せにすること」を基に、活動を考えようとする態度を養う。

活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの活動を通してまとめた自分の職業観を基に、理想の働き方（「人を喜ばせること」「人を幸せにすること」）をまとめ、共有する。 ○自分の才能や個性、願う生き方について考え、理想の働き方を実現することができそうな職業について考え、交流する。 ○交流した職業を分野ごとにグループ分けする。(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業分野ごとにグループを構成し、理想の働き方を今の学校生活の中で模擬体験するためのプロジェクト活動を計画する。 ○グループごとに、自分たちの職業分野で理想の働き方を実現している人について調べ、インタビューする。 ○グループごとに活動内容を決定する。 ○企業訪問、工場見学、職業体験を通して、プロジェクト活動をより充実させるためのヒントを収集したり、アドバイザーを委託したりする。(12) 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとにプロジェクト活動のロードマップを作成し、役割を分担する。 ○個人のロードマップを作成し、グループ内ですり合わせる。(3) ○プロジェクト活動に向けての準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回プロジェクト活動を実行する。 ○仲間やアドバイザーから、活動をより活性化させるためのヒントやアドバイスを収集する。 ○活動内容について、「人を喜ばせること」「人を幸せにすること」の視点から再考し、第2回プロジェクト活動に向けての準備をする。 ○第2回プロジェクト活動を実行する。(28) 	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクト活動に参加した人やアドバイザーから、感想や意見を収集する。 ○自身のプロジェクト活動を振り返り、まとめ、交流する。 ○今までの活動を通して得た学びから、個々の職業観を再構築し、まとめる。(12)
加筆修正欄					
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことや特技を生かして人を幸せにする働き方がしたい。 ・誰かを幸せにしたり、社会貢献したりしていきたい。 ・自分の特技や個性、才能を生かして人を幸せにできれば最高だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの特技や個性、才能を生かした活動にしていきたいな。 ・大阪研修は様々な職種の人に話を聞くチャンスだ。 ・自分たちの活動において、的確なアドバイスをくれそうな人はどんな人だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの中でも自分にできることは何だろう。 ・自分の理想の働き方を実践していくために、こんな活動も必要だ。 ・自分ならこんなこともできるのではないか。 ・活動を絶対に成功させたいから、綿密な計画を立てる必要があるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな人が喜んでくれて嬉しい。もっと喜ばせたい。そのために新たにできることは何だろう。 ・グループの仲間一人一人がもっと特技や個性、才能を発揮して活動できるよう、役割をもう一度考え直してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を活性化させることは大変だったけれど、そこで試行錯誤することができた。 ・人が喜んでくれることで利益を伴うとより一層嬉しい。 ・自分は将来、こんな職業に就くといいかもしれないな。そのために、今できることは何だろう。
実際の姿					

ジェレンマ・	<p>■楽しそうな活動にしていきたいけれど、自分にできることから充実感を得ようと考え、自分の興味や楽しさだけを優先してプロジェクトを選択してはいけないように思う。</p>	<p>●たくさんの顧客に満足してもらって活動にすることも大切だが、一人の顧客の満足度を高めることも必要なのではないか。</p> <p>●自分の個性や才能を存分に生かしたいが、仲間の前でそれを発揮することが本当にできるだろうか。</p>
--------	---	---

(1) 目標 (35/58)

サービスを提供する側とされる側の互いの立場から考え、アドバイザーの価値観や仕事に対するこだわり、やりがいに触れることで、より理想の働き方に近付けるよう活動を工夫できる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

一つの仕事に没頭し、勤労を通して、社会貢献に伴う喜びが自らの充実感として体得できる活動になるよう議論する。

本時 (35/58)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される子供の発言)	教師の手立てと見届け		
<p>1 グループごとに活動の成果を発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵はがきやしおり、雑貨の販売を実施した。どんなデザインだと喜んでもらえるのかが分かった。〈アート製作プロジェクト〉 ・掃除屋さんを実施した。大変だったけれど、やった自分たちも気持ちよくて達成感を得られた。〈サービスプロジェクト〉 ・イベントを実施した。相手が喜んでくれたのか実感しにくかったけれど、多くの人が集まってきて嬉しかった。〈エンタメプロジェクト〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>第2回実施に向けて、活動を工夫しよう</p> </div> <p>2 第2回の実施に向けて、活動の改善点や目標を議論し、交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加してくれた子たちが楽しそうにしてくれていたの、次はもっとたくさんの人が参加できる活動にしたい。 ・相手が喜ぶデザインで商品を製作していかなければならない。また欲しいと思ってもらえる商品を製作したい。 ・もっと活動の質を高めたい。 <p>○参加してくれた人たちは本当に喜んでくれていたのかな。またやってほしい、また来たいと思ってくれたのかな。どうしてそう感じたのかな。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〈サービスをする側〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけ準備するのに費用対効果が低いように思う。満足してくれていないのだろうか。 ・自分たちの満足感の方が大きいのかも。興味本位や面白さを求めて集まってくれただけかもしれない。イベントに参加することで得られる喜びについてもっと考えていかなければならない。 ・もっと質の高いサービスを求めているのかも。 ・自分たちの活動のどんなところを喜んでくれたのか、正確にはよく分かっていないように思う。特にイベントは、商品や清掃後の環境など、目に見えて得られるものがない分、喜びや幸せを感じたポイントが分かりにくい。 ・もっと参加してくれた人たちの気持ちや様子を知りたい。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〈サービスをされる側〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品やサービスに対して支払う価格が低い。費用が発生するからこそ、より質の高い商品やサービスを求めている。 ・アートに対しての価値は個人差があり、生活必需品ではない。 ・興味本位で参加しただけであり、イベントの内容そのものに満足しているわけではない。 </td> </tr> </table> <p>○アドバイザーの意見を聞いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスを受ける側の人たちが、どんな商品やサービスを求めているのかという調査を実施して、そこから活動内容を考えていけば、サービスを受ける側の人たちの喜びを高めることにつながるのではないだろうか。 ・たくさんのお客さんを集めることも必要だけれど、一人一人の満足度を高めるような活動にしていきたい。費用対効果は低かったとしても、自分たちの商品やサービスを通して、どのような喜びや幸せを感じてほしいのかをはっきりとさせ、それが実現できるような活動にしていきたい。 ・より多くの人に喜びや幸せを感じてもらいたいから、収益を高める努力もしていくことは必要だと思う。そのために、宣伝活動をするなど、自分たちの商品やサービスへのこだわりがサービスを受ける側に伝わる活動を考えていきたい。 <p>3 今後の活動時間の見通しをもち、第2回の実施に向けて目指す姿を交流する</p> <p>○次の授業で、あなたのグループはどのような活動をして、あなた自身は何をするのかを明らかにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの商品へのこだわりが伝わるような活動をしていきたい。そのために、事前の宣伝活動準備や、商品の説明ポップを作成する。また、商品そのものを再考し、もっとメッセージ性のあるものを製作する。 ・一人一人の満足度を高めるために、事前アンケートを作成する。また、アンケートを実施させてもらえる場所を探し、依頼する。 ・自分たちのサービスの質を高めるために、実際の清掃会社をお願いして、サービスの工夫を学びに行く。 <p>4 本時の議論を通して、理想の働き方について捉え直したことを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの満足感や興味本位、面白さだけを求めても、相手の満足感を高めることには繋がらない。自分本位ではなく、相手にもっと寄り添って考えることで、自分も相手も幸せや喜びを感じられる活動になっていくように思う。 	<p style="text-align: center;">〈サービスをする側〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけ準備するのに費用対効果が低いように思う。満足してくれていないのだろうか。 ・自分たちの満足感の方が大きいのかも。興味本位や面白さを求めて集まってくれただけかもしれない。イベントに参加することで得られる喜びについてもっと考えていかなければならない。 ・もっと質の高いサービスを求めているのかも。 ・自分たちの活動のどんなところを喜んでくれたのか、正確にはよく分かっていないように思う。特にイベントは、商品や清掃後の環境など、目に見えて得られるものがない分、喜びや幸せを感じたポイントが分かりにくい。 ・もっと参加してくれた人たちの気持ちや様子を知りたい。 	<p style="text-align: center;">〈サービスをされる側〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品やサービスに対して支払う価格が低い。費用が発生するからこそ、より質の高い商品やサービスを求めている。 ・アートに対しての価値は個人差があり、生活必需品ではない。 ・興味本位で参加しただけであり、イベントの内容そのものに満足しているわけではない。 	<p>○プロジェクトごとに活動グループを形成し、自分の理想の働き方を実現できそうなグループを自ら選択できるようにする。そうすることで、生徒一人一人の特性を存分に発揮し合いながら活動できるようにする。</p> <p>○アンケートや模擬通貨を活用し、顧客満足度を収益として実感できるようにする。</p> <p style="text-align: center;">〈模擬通貨システム〉</p> <p>対象であるサービスを受ける側に対して模擬通貨を発行する。各活動において必要な模擬通貨の価値を設定し、対象者は自由に選択して活動に参加することができるようにする。</p> <p>○活動で味わった満足感を交流し、働く喜びを共感し合えるようにする。その後、その満足感の裏にある事実を見つめさせることで、相手意識や活動の真価について考え、より真剣さをもって活動に向かえるようにする。</p> <p>○グループだけでなく、学級全体でも交流し、客観的に活動を考えるようにする。そこから、自分たちの活動にも生かせる考え方を受容し、活動への意欲を高め合えるようにする。</p> <p>○活動するグループごとに、活動を見届けるアドバイザーを配置する。アドバイザーは、生徒たちが希望した相手を事前に依頼する。アドバイザーは、活動を見届け、活動終了後にアドバイス動画や顧客インタビューをもとに、生徒の活動について理解し、必要なアドバイスを考えて撮影したりする。また、大阪研修や職業体験先で出会った方々との関わりの中で得られた学びもアドバイス動画として活用していく。それらの動画を、各グループや全体に配信し、「人を幸せにすること」「人を喜ばせること」を実現する活動にするためのヒントとする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>自分たちの活動を見つめ直し、サービスをする側とされる側のどちらも喜びや幸せを実感できる活動にするために、必要な活動について考え、工夫している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ交流時の発言やワークシートへの記述で見届ける。 </div>
<p style="text-align: center;">〈サービスをする側〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけ準備するのに費用対効果が低いように思う。満足してくれていないのだろうか。 ・自分たちの満足感の方が大きいのかも。興味本位や面白さを求めて集まってくれただけかもしれない。イベントに参加することで得られる喜びについてもっと考えていかなければならない。 ・もっと質の高いサービスを求めているのかも。 ・自分たちの活動のどんなところを喜んでくれたのか、正確にはよく分かっていないように思う。特にイベントは、商品や清掃後の環境など、目に見えて得られるものがない分、喜びや幸せを感じたポイントが分かりにくい。 ・もっと参加してくれた人たちの気持ちや様子を知りたい。 	<p style="text-align: center;">〈サービスをされる側〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品やサービスに対して支払う価格が低い。費用が発生するからこそ、より質の高い商品やサービスを求めている。 ・アートに対しての価値は個人差があり、生活必需品ではない。 ・興味本位で参加しただけであり、イベントの内容そのものに満足しているわけではない。 		